

瑞穂町のデジタル化に向けた取組について

I システム共同運営

運営費削減と電算運営の効率化を目的に、西多摩地域4町村で共同運営し20%から30%の経費削減

II 地域資料のデジタル化

国内資料館において日本で初導入の「被写体認証技術」を活用したデジタル公開地域資料が手軽にスマートフォンなどで閲覧できるアプリを開発し町歩きにも活用

III 町内中小企業へのデジタル化支援

町内約1,600企業のデジタル化を推進するためにデジタル技術のノウハウを有するベンチャー企業を取り込み、新しい企業の活躍の場を提供することで町内が活性化する環境を目指す

瑞穂町民の悲願である多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面の延伸は、交通の利便性の向上だけでなく「人、モノ」そして「デジタル技術」が行き交う手段となり更なる発展に繋がることを期待